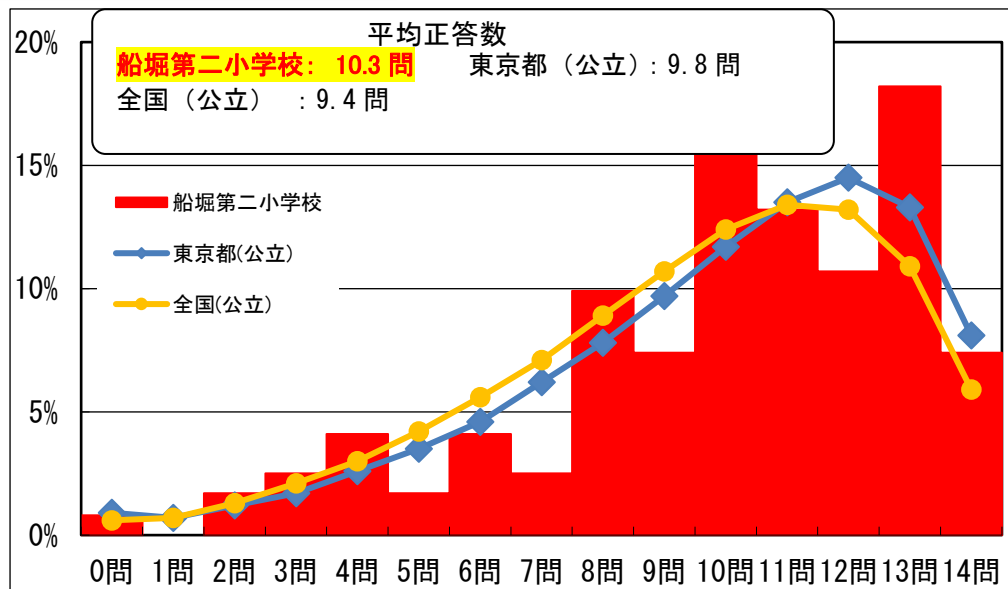


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 船堀第二小学校

正 答 数 分 布



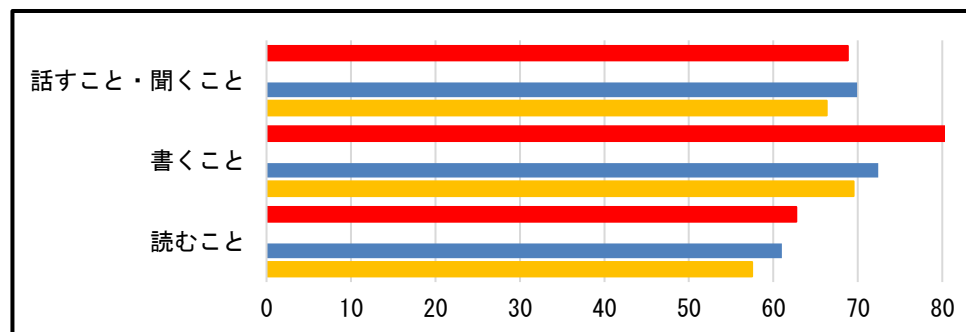
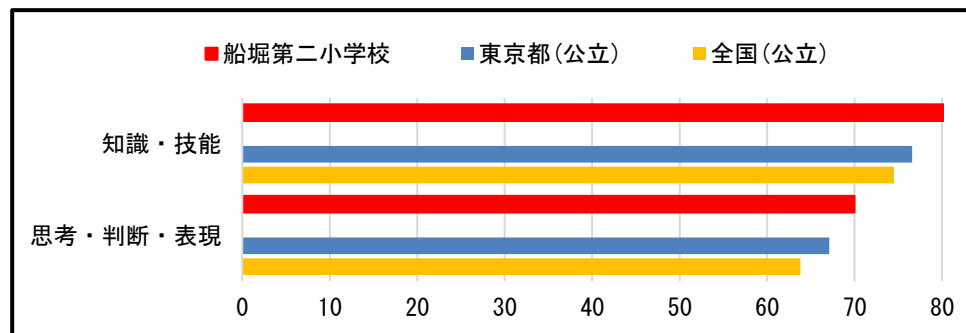
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

国 語	上 位 ← → 下 位			
	A層 12～14 問	B層 10～11 問	C層 8～9 問	D層 0～7 問
船堀第二小学校	41.7	24.1	16.7	17.6
東京都（公立）	34.2	25.8	18.4	21.4
全国（公立）	27.7	26.0	20.9	25.4

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

船堀第二小学校	73%
東京都（公立）	70%
全国（公立）	66.8%
都との差	3ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

説明文では、図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題が出題されている。これに対し、本校の正答率は 74.1%となっており、都正答率 62.1%より 12.0%上回っている。決められた条件の中で、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、まとめることができている。

1. □の誤答は、本来、インタビューとは、自分が知りたいことを話し手から聞き出すということであるが、相手の立場になった質問が正しいと捉えてしまっているパターンが多かった。3. □の誤答は、言葉が変化していることをものの呼び方が変わったと判断してしまったパターンが多かった。問われていることを理解せず、時代ごとの言葉の意味の変化と、ものの名前の変化を混同してしまっている。そのため、何について問われているのかを意識する必要がある。

これらの分析から、本校では、教科を問わずに目的を意識した言語活動ができるように指導していく。また筆者の主張を正確に読み取るために、段落相互の関係を意識して説明文を丁寧に読み進めることができるように、引き続き指導していく。今後も、自他の立場を意識して適切な言葉のやり取りができるような児童の育成を目指す。